

[総合的な学習の時間]

総合的な学習の時間における国際理解教育の授業実践

－日中共同「異己」理解・共生プロジェクトを通して－

伊藤 貴史*

1 研究主題設定の理由

(1) 文化的多様性について理解することの必要性

地域や学校、職場など、社会生活のあらゆる場において、異なる習慣や価値観を有する他国の人と生活を共にする機会が増えた。また、就学や就職などで自国とは異なる文化圏で生活する日本人も多い。このようにグローバル社会が進展する中、異文化に対する無理解が、人間関係を形成する上で大きな障害となったり、トラブルの原因となったりするケースも少なくない。このような問題の解決に向けて、文化的多様性について理解するとともに、異文化を尊重する態度を身に付ける必要性はますます高まっている。また、それを実現するための教育実践が強く求められている。

(2) メディアと生徒の実態

メディアの発達に伴い、生徒の周囲には膨大な情報があふれている。海外に関する情報もメディアを通して容易に収集することができる。一方で、情報の質に着目すると、アカデミックな情報と雑多な情報とが混沌と入り乱れている状態である。このような中で、生徒は他国やそこで生活する人々に対する自らの認識を形成していく。そのため、偏った先入観をもったり、無意識のうちに差別意識をもったりすることも少なくない。

これまでの実践を通して、他国やそこで生活する人々に対する生徒の認識が、メディアの影響を多分に受けて形成されていることが確認できた。また、隣国である韓国や中国に関しては、比較的ネガティブな情報の影響を受けている生徒が多いということも確認できた。こうした生徒の実態を受け、生徒にとって、他国やそこで生活する人々に対する自らの認識を形成する過程において、情報を適切に活用する力が不可欠であると考えられる。

(3) 先行研究を受けて

これまでの「臨床的アプローチとESDを基軸とした日韓相互理解のための歴史教育の教材開発研究」¹⁾や「日韓中の協働による相互理解のための国際理解教育カリキュラム・教材の開発」²⁾などの先行研究は、歴史認識や生活習慣の違いに着目し、多くの生徒に文化的多様性について理解させる上で、大きな成果を挙げた。本研究は、これまでの先行研究の成果を生かしつつ、新たな視点として、他国の人に対する生徒の認識が、メディアの影響を多分に受けて形成されていることを生徒自身に気付かせ、情報を適切に活用することの必要性について理解させることにも重点を置いた。また、生徒に文化的多様性について理解させるだけでなく、実生活や実社会の他国の人と関わる場面において、異文化を尊重する態度を身に付けさせることまでを視野に入れた。そこで、研究の目的を共生に置いた「中日『異己』プロジェクト」(以下、「異己プロジェクト」)³⁾を参考にし、実践に取り組むことで、これまでの研究を発展させたいと考えた。

2 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

本研究は、主に友人関係に関する価値観に着目し、日中の文化の違いを教材として取り上げた授業実践に取り組むことで、生徒に文化的多様性について理解させるとともに、異文化を尊重する態度を身に付けさせることを目的とする。また、他国やそこで生活する人々に対する自らの認識を形成する過程において、情報を適切に活用することの大切さについて理解させることを目的とする。

* 柏崎市立第一中学校

(2) 研究の方法

本研究は、「異己プロジェクト」を参考とし、以下の手順で研究を進めた。

- ① 本研究主題に関わる先行研究について調査した。
- ② 「異己プロジェクト」に参加し、首都師範大学実験学校の教師と協力して、授業実践の構想と使用する教材等について協議し、指導案を作成した。
- ③ 授業実践（全4時間）を行った。実践中、必要に応じて、首都師範大学の教師と協議しながら、指導案の修正を行った。
- ④ 授業実践の結果を集約・整理し、考察を行った。
- ⑤ 研究のまとめと今後の研究課題の抽出を行った。

3 研究結果と考察

(1) 授業実践

- ① 題材名 「日中の文化の違いについて追究しよう」
- ② 題材のねらい
 - ア 日中の文化の違いに興味・関心をもち、課題について意欲的に追究しようとする。
 - イ 収集した情報を基に、中国人に対する自らの認識を形成することができる。
 - ウ 様々な資料から、日中の文化の違いに関する情報を適切に読み取ることができる。
 - エ 文化的多様性について理解し、異文化を尊重する態度を身に付けることができる。
 - オ 他国やそこで生活する人々に対する自らの認識を形成する過程において、情報を適切に活用することの大切さについて理解することができる。

③ 対象生徒

柏崎市立公立中学校1年生（35名）

④ 題材の流れ

| 次 | 時間 | 学習内容（○） | 教師の支援（・）評価（□） |
|----|-------------------|--|---|
| 1次 | 20分 30分 | ○事前アンケートに回答する。 ○友人関係に関する質問に回答する。 | <input type="checkbox"/> 日中の文化の違いに興味・関心をもち、課題について意欲的に追究しようとしている。〈1～4次の活動の様子〉 ・教師が説明をしながら進める。 |
| 2次 | 10分 25分 15分 | ○友人関係に関する質問に対する日中の中学1年生の回答結果を確認する。 ○友人関係に関する質問に対する回答結果から気付いたことや感じたこと、疑問に思うことについて、グループで意見交換を行い、ワークシート①にまとめる。 ○次時で日本の大学に通う2名の中国人留学生に対して質問する内容をグループでまとめる。 | ・プレゼンテーションでグラフを提示し、教師が説明をする。 <input type="checkbox"/> 様々な資料から、日中の文化の違いに関する情報を適切に読み取ることができる。〈ワークシート①〉 |
| 3次 | 20分 30分 | ○日本の大学に通う2名の中国人留学生から、中国の習慣や価値観についての説明を聞き、気付いたことや感じたことをワークシート②にまとめる。 ○グループの代表が、前時にまとめた質問を発表し、中国人留学生から回答してもらい、気付いたことや感じたことをワークシート②にまとめる。 | ・教師が質問し、留学生が回答する形式で進める。 <input type="checkbox"/> 様々な資料から、日中の文化の違いに関する情報を適切に読み取ることができる。〈ワークシート②〉 ・必要に応じて教師が解説及び補足をする。 <input type="checkbox"/> 様々な資料から、日中の文化の違いに関する情報を適切に読み取ることができる。〈ワークシート②〉 |
| 4次 | 30分 | ○これまでの学習を通して、気付いたことや感じたことをワークシート③にまとめる。 | <input type="checkbox"/> 収集した情報を基に、中国人に対する自らの認識を形成することができる。〈ワークシート③、事後アンケート〉 |

| | | |
|-----|----------------|---|
| 20分 | ○事後アンケートに回答する。 | <input type="checkbox"/> 文化の多様性について理解し、異文化を尊重する態度を身に付けることができる。〈ワークシート③, 事後アンケート〉 <input type="checkbox"/> 他国やそこで生活する人々に対する自らの認識を形成する過程において、情報を適切に活用することの大切さについて理解することができる。〈ワークシート③, 事後アンケート〉 |
|-----|----------------|---|

⑤ 実践の様子

初めに、事前アンケートに回答した。三つの項目に対して、それぞれを4段階で評価し、自分の判断の理由を記述した。A男は、項目1の「あなたがもつ中国人に対するイメージは」という質問に対して、「悪い」と回答した。また、その理由として、ニュースの報道で見た、さんごの密猟や海底の天然ガス田の開発を挙げた。以下は、項目1の結果である。

【事前アンケートにおける項目1の結果と理由】

項目1 あなたがもつ中国人に対するイメージは

〈悪い 3人〉

- ・さんごの密猟をしたり、天然ガスを奪ったりしている ・著作権を無視する ・尖閣諸島を日本と争っている
- 〈どちらかという悪い 28人〉

- ・知的財産権を侵害している ・国民に圧政を強いている ・ルールを守らなそう ・冷たい感じがする ・日本のまねをする ・食が危ない ・さんごを密猟している ・大気汚染がひどい ・軍隊をもっている ・争いが多そう ・反日をしている ・犯罪が多そう ・日本との間に問題や争いが多い ・福袋を転売し、不当にもうける ・母親の職場に買い物に来る中国人は、一人1個限定の商品を何度も買おうとする ・PM2.5で空気を汚している ・尖閣諸島をめぐる日本と争っている ・一人っ子政策は良くない ・食への異物混入 ・倒れている人を見ても助けられないというニュースを見た など
- 〈どちらかという良い 4人〉

- ・社会の授業で中国について聞いたことが良かった ・親切そう ・テレビで一般の人へのインタビューを見たときに優しくな人もいたから

〈良い 0人〉

事前アンケートの記入後、友人関係に関する質問に回答した。三つの質問に対して、それぞれ四つの回答から自分の考えを選択し、そのように判断した理由を記述した。いずれの質問も、想定された学校生活の場面において、友人がとった行動について自分がどのように考えるかを回答するものであった。

2次では、教師から友人関係に関する質問に対する日中の中学1年生の回答結果が紹介され、学級の全員で確認した(写-1)。どの質問に対する回答も、日中の中学1年生で差が見られたが、とりわけ、その差が顕著に生じた質問1の結果が提示された瞬間、教室にどよめきが起った。以下は、質問1の結果である。



写-1 回答結果を確認する様子

【友人関係に関する質問1と結果】

質問1 修学旅行の1日目の夜のことで。仲の良いAさんとBさんが、夜の自由時間のときに、部屋の中で、家から持ってきたおやつを出し合って食べることになりました。それぞれのおやつを出して楽しく食べ始めました。Bさんは、自分が持ってきたチョコレートを出して食べようと思いましたが、トイレに行きたくなり、トイレに行きました。しばらくして、部屋に戻ってきたら、チョコレートが全部なくなっていました。BさんがAさんに「僕のチョコレート知らない」と聞くと、Aさんは「僕も大好きなチョコレートだったから、みんな食べてしまったよ」と言いました。

Aさんの行動について、あなたはどのように思いますか。次の項目から自分の考えに当てはまると思われる答えを選んでください。

| | 日本 | 中国 |
|---|-----|-----|
| A：全然気にしない。仲良しなのだから、あなたの物、私の物と区別する必要がない。 | 3% | 22% |
| B：少し違和感はあるけれど、問題にしない。二人の友人関係にも影響はない。 | 24% | 53% |
| C：良い気持ではない。今後またこのようなことがあっては困る。 | 61% | 25% |
| D：不愉快。Aさんの行動は理解しにくい。今後の友人関係にも影響する。 | 12% | 0% |

回答結果を確認した後、グループごとに気付いたことや感じたこと、疑問に思うことについて意見を交換し、ワークシートにまとめていった(写-2)。どのグループにおいても、質問1に対する回答結果が話題の中心となった。以下は、A男のグループの意見交換の結果である。

【A男のグループの意見交換の結果】

- 気付いたこと
 - ・日本人はさちょうめんて中国人はおおざっぱな感じがする。
 - ・中国人はけんかをしてあまり気にせず、自分たちで解決できそう。
 - ・中国には友達に優しい人が多い。 など
- 疑問に思うこと
 - ・チョコレートを食べられて損した気持ちにならないのだろうか。
 - ・友達に対してどんなきに怒るのだろうか。
 - ・相手のことが普通に許せるのであれば、自分も友達に対して同じことを普通にするのだろうか。 など



写-2 グループの意見交換の様子

意見交換が終わると、教師から次時の授業で、日本の大学に通う2名の中国人留学生から中国の習慣や価値観について教えてもらったり、質問に答えてもらったりすることが告げられた。そこで、グループごとに話し合いながら、次時に質問したいことをまとめた。ほとんどのグループが、友人関係に関する質問1に対する中国の中学生の回答結果について疑問に思うことを基に質問をまとめた。

3次では、日本の大学に通う2名の中国人留学生がゲストティーチャーとして授業に参加した。前半は、留学生から中国の習慣や価値観についての説明があった(写-3)。後半は、グループの代表が、前時にまとめた質問を発表し、留学生が回答するという形式で進められた。A男のグループは、友人関係について二つ質問した。グループの代表であったA男は、一つ目に、中国では仲の良い友人同士であれば勝手に物を借りても許されるのかという質問を投げ掛けた。質問に対して、留学生は、物にもよるが、中国は昔から共有している物が多ければ多いほど互いの仲が良いことになることを説明した。また、友人関係に関する質問1を取り上げ、自分もチョコレートを食べられたことに対して友人であれば何とも思わないと答えた。二つ目に、友達に対して怒るのはどのようなときかという質問を投げ掛けた。その質問に対して、留学生は、自分が友人からやられて許せないことは、思っていることをはっきりと伝えてもらえないことであると答えた。もう一人の留学生も同じ回答をし、さらに、日本人は友人同士であっても、思っていることをはっきりと伝え合わないところがあると付け加えた。数名の生徒から、「確かにある」という声が上がった。



写-3 中国の習慣について説明を受ける様子

最後に、教師から事前アンケートの結果が円グラフで提示された。中国人に対して、ほぼ9割の生徒が「悪い」若しくは「どちらかという悪い」というイメージをもっているという結果が示されると、留学生は、自分たちも日本に来る前は、日本人に対して良くないイメージをもっていたが、実際に日本で生活した結果、全くイメージが変わったという経験について語った。

4次では、これまでの学習を通して、気付いたことや感じたことをワークシートにまとめた。A男は、互いに相手の国の文化を理解することの大切さや、メディアに捉われるのではなく、実際に交流してみるものの必要性などについて自分の考えをまとめた。以下は生徒のワークシートの内容である。

【生徒のワークシートの内容】

- ・お互いに相手の文化を理解することが大切だと思いました。今回の授業で、中国人に対するイメージが良くなりました。こうやってメディアに捉われるのではなく、実際に他国の人と交流してみることが必要だと思いました。これから大人になって、他国の人たちと関わりながら生活していくことが増えると思うけれど、様々な国の文化について知り、他国の人たちと交流できれば良いと思いました。(後略) … (A男)
- ・…(前略)相手に合わせつつも、日本の文化を教えたり、相手の国について教えてもらったりしながら関わっていきたいと

思いました。今までのイメージとは違って、中国人は優しい人が多いということを知りました。一番学んだことは、一部のメディアの情報だけで、その国を判断してはいけないということです。これから、どんな国の人たちと接していけるのか楽しみです。(B男)

- 私は、お互いに認め合って、関わり合っていくのが良いと思いました。「日本の文化は〇〇だから」というように、自分の文化を主張するのではなく、「〇〇の文化は、日本とこういうところが違うのだ」と理解していけると良いです。そして、メディアの情報だけで勝手な偏見をもたず、実際に交流などをして、その国のことについてもっと知っていければ良いと思いました。(後略) …。(C子)

ワークシートの記入後、事後アンケートに回答した。事前アンケートとのときと自分の回答が変わった項目については、その理由について記述した。A男は、中国人に対するイメージについて、事前アンケートの「悪い」に対して「良い」と回答を変えた。また、初めて中国人と交流した体験や友人関係に関する質問に対する中国の中学1年生の回答、自分の中国人に対するイメージがメディアの情報のみによって形成されていたことに対する気付きが変わった理由として記述した。事後アンケートにおける項目1の結果は以下のとおりであった。

【事後アンケートにおける項目1の結果と変容の理由】

項目1 あなたがもつ中国人に対するイメージは

〈悪い 1人〉

- ・以前よりも多少は良くなったが、これが全てではないと思うから

〈どちらかという悪い 3人〉

- ・中国の留学生が、中には悪い人もいると言っていたから など

〈どちらかという良い 15人〉

- ・前の私は怖いイメージだったり、悪いイメージだったりしたけれど、授業で実際に交流したことで優しいイメージが変わったから ・テレビなどの報道が一部のことだけだと知ったことや、実際に交流してみて優しい人と感じたこと ・中国の人と直接話をしてみて、メディアなどから受けた印象と全然違ったから など

〈良い 16人〉

- ・メディアの報道だけで悪いイメージをもっていたけれど、知っていくうちに『面白い、優しい、良い人』というイメージが変わっていったから ・中国の留学生が質問したことに対して丁寧に答えてくれたから。また、テレビの情報だけで決めていたのは間違いだと思ったから ・友達に対する考え方を知ったり、直接会ったりして、良い人もいることやテレビの報道が一部だけだということが分かったから など

⑥ 結果と考察

題材のねらいを基に、本題材の結果について考察する。

題材のねらい「ア 日中の文化の違いに興味・関心をもち、課題について意欲的に追究しようとする」については、学習を通して、全ての生徒に文化の違いに対して興味・関心をもち、意欲的に追究する姿を確認することができた。

「イ 収集した情報を基に、中国人に対する自らの認識を形成することができる」「ウ 様々な資料から、日中の文化の違いに関する情報を適切に読み取ることができる」については、91%の生徒が「おおむね満足できる」以上の評価であった。ワークシートの内容から、ほとんどの生徒が、質問1に対する回答結果やゲストティーチャーから収集した情報を基に、中国人に対する自分の認識を形成したことが確認できた。特に、事後アンケートにおいて、中国人に対するイメージに変容があった生徒の全員が、収集した情報を基に変容の理由を明確に記述することができた。

「エ 文化的多様性について理解し、異文化を尊重する態度を身に付けることができる」については、86%の生徒が「おおむね満足できる」以上の評価であった。ほとんどの生徒のワークシートに、異文化理解と多様性尊重の必要性について言及している記述を確認することができた。

「オ 他国やそこで生活する人々に対する自らの認識を形成する過程において、情報を適切に活用することの大切さに気付くことができる」についても、86%の生徒が「おおむね満足できる」以上の評価であった。ほとんどの生徒のワークシートに、限られたメディアの情報のみに捉われることの危険性や情報を適切に活用することの必要性について言及している記述を確認することができた。

また、事前及び事後アンケートの結果から、中国人に対するイメージについて、事前アンケートでは、89%の生徒が「悪い」若しくは「どちらかという悪い」であったのに対し、事後アンケートでは、89%の生徒が「良い」若しくは「どちらかという良い」であり、大きな変容が見られた。そう判断した理由についても、事前アンケートでは、メ

ディアからの情報のみに基づいたものばかりであったのに対し、事後アンケートでは、質問1の回答結果や中国の留学生から実際に教えてもらったことを基に、気付いたり、感じたりしたことがほとんどであった。

以上のことから、ほとんどの生徒が題材のねらいを達成できたと判断することができた。

4 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本研究の成果について、研究目的に即してまとめる。

「生徒に文化的多様性について理解させるとともに、異文化を尊重する態度を身に付けさせる」については、授業実践の結果、題材のねらい「エ 文化的多様性について理解し、異文化を尊重する態度を身に付けることができる」において、86%の生徒がねらいを達成できたことから、本研究が一定の成果を上げた判断できる。生徒の中に、文化的多様性に対する理解と尊重に対する意識を芽生えさせることについては十分な手応えを感じる事ができた。

「他国やそこで生活する人々に対する自らの認識を形成する過程において、情報を適切に活用することの大切さについて理解させる」については、授業実践の結果、題材のねらい「オ 他国やそこで生活する人々に対する自らの認識を形成する過程において、情報を適切に活用することの大切さに気付くことができる」において、86%の生徒がねらいを達成できたことから、本研究が一定の成果を上げた判断できる。メディアのもつ影響力の大きさや適切に情報を活用することの重要性について認識させる点においても、十分な手応えを感じる事ができた。

(2) 今後の課題

本研究における授業実践で取り上げた友人関係に関する価値観の違いは、日中の文化の違いの中でも、ごく一部分である。また、生徒が認識した中国人の友人関係に関する価値観が、全ての中国人に当てはまるかという疑問も残る。そのような点において、授業実践は、生徒に文化的多様性の理解と尊重を概念として習得させる上では有効であったが、具体的な知識として習得させる上では、不確かな部分があったことは否めない。今後、教材の選定については、より慎重な検討を重ねて臨みたい。

また、多様性を尊重することや、情報を適切に活用することについては、その重要性や必要性を認識させたことにとどまり、具体的な行動をどのようにするべきかという段階まで高めることができなかつた。どのように高めていくかを今後の課題とし、引き続き研究を進めていきたい。

注

- 1) 2011～2013年度科研費基盤研究(C) (研究代表者・釜田聡)
- 2) 2009～2011年度科研費基盤研究(B) (研究代表者・大津和子)
- 3) 主催者 科研費「朝阳区国際理解教育実践モード研究」実施代表、北京師範大学国際・比較教育研究院国際理解教育研究センター。日本・中国の研究者・教育実践者が、価値多元化社会における相互理解と共生を促すための国際理解教育のプログラムを「異己(いこ)」の概念を用い、理論的・実践的に検討し、開発・改善することを目的とした研究。

引用文献

- 大津和子 『日韓中でつくる国際理解教育』明石書店、2014年、pp.28-58
- 大津和子 溝上 泰 『国際理解 重要用語300の基礎知識』明治図書、2000年
- 日本国際理解教育学会 『グローバル時代の国際理解教育—実践と理論をつなぐ—』明石書店、2010年
- 多田孝志 「グローバル時代の人間形成に資する学習方法、感性・響感教育、教師教育、国際交流活動」、『グローバル時代の学校教育』三恵社、2013年、pp.361-365
- 横田和子 「文化的多様性の学びと国際理解教育」、『国際理解教育』Vol.19明石書店、2013年、pp.44-50